

8-4-6 業務研究発表会WG

1. WG 設置主旨

本WGは、建設コンサルタントの継続教育の一環として、平成13年度より開催される「建設コンサルタント 業務研究発表会」を円滑に開催するため、令和元年度より設置された。業務研究発表会は、「業務における優れた成果や自主研究開発成果の発表を通じて、互いの技術の研鑽を図ること」を目的としており、それを具現化するための検討・準備を実施するWGであり、今回で21回目の開催となった。

2. 主な活動の記録

毎年9月の業務研究発表会開催に向けて、インフラストラクチャー研究会と共同して、主に以下の活動を実施した。

(1) ワーキングの開催（計4回の開催）

今期はコロナ状況により、メール審議開催やWeb/会場開催（会場参加人数の削減）で協議を行った。

a) 第1回 運営会議（4月7日）

今年度開催にあたり、決定事項、確認事項をメール配信し意見照会を実施した。

b) 発表論文 一次審査会（6月11日）

応募総数105件より、新規性・市場性・論理性という観点で審査を実施し、4分野で各8編、合計32編を選定した。（査読期間：5月20日から6月13日、審査結果発表：6月25日）

c) 業務研究発表会 反省会（10月14日）

開催結果を報告、各種データを集計・分析・考察して概要を共有し、次年度に向けて課題抽出と改善策を協議した。

(2) 業務研究発表会の開催

インフラストラクチャー研究会並びに（一社）建設コンサルタンツ協会の共同主催による「第21回建設コンサルタント業務研究発表会」の二次審査会を令和3年9月14日（火）、建設コンサルタンツ協会本部にて開催した。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、協会会議室よりオンラインライブ配信にて発表及び授賞式を行った。

その結果、「河川・水防災」、「交通・道路・橋梁」、「都市・マネジメント」、「新技術・新領域」の4分野32編より、最優秀賞2名、優秀賞2名、特別賞4名が選考され、同日オンライン表彰式を開催した。

なお、オンラインライブ配信であったこともあり、聴講者の延べ人数は1,577名となり、従来開催を大幅に上回る発表会となった。

今回は残念ながら、基調講演、発表会終了後の海外視察報告会ならびに懇親会は中止となった。また、協会機関紙「Consultant」に昨年同様、開催結果を掲載した。

3. 次年度の活動について

22年目となる業務研究発表会であるが、コロナ禍の影響は収束していないこと、また今年度オンライン配信での開催により聴講者が増大した効果も踏まえ、引き続きオンライン開催を予定している。昨年の課題、経験を活かし、発表については録画配信、質疑応答はオンラインでの開催とし、発表者通信環境が評価へ影響しないよう配慮した開催準備を進める。またアフターコロナの新しい生活様式にも着目し、これまでの知見を活かした業務研究発表会の改革を検討する。

コンサルティング・エンジニアの技術研鑽という目的をより充実させ、昨今の働き方改革にも呼応した、誰もが参加できる機会としての業務研究発表会を目標とする。活動計画は次の通りである。

- ・第1回 運営会議（2月16日）前年度に前倒しで開催し、令和4年度開催方針について協議
- ・発表論文 一次審査会（6月10日）
- ・令和4年度 業務研究発表会（9月13日）9:30開始～17:00終了（オンライン開催）
- ・業務研究発表会 反省会（10月初旬）

（業務研究発表会WG WG長 中山 敬邦）